

タバコによる 経済的損失

タバコは喫煙者本人や周囲の人へ健康被害をもたらしますが、社会や会社にも経済的損失を与えます。タバコが原因の病気や火災などによる社会の損失は2兆円以上にのぼり、労働災害や欠勤による企業の経済活動へも大きな影響を及ぼします。

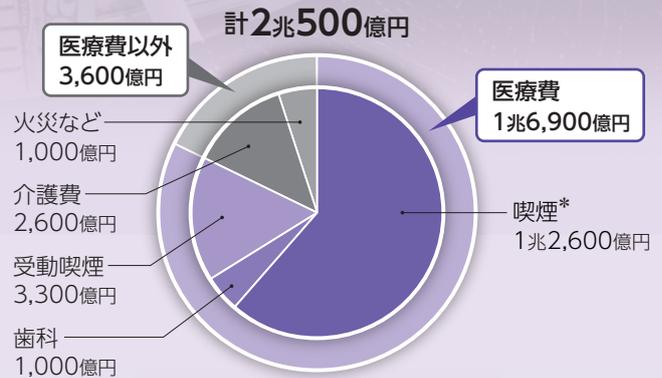
タバコが原因の病気にかかる 医療は1兆6,900億円!

タバコは、肺がんやCOPD(慢性閉塞性肺疾患)だけでなく、その他のがんや心筋梗塞、脳卒中、歯周病など様々な病気のリスクを高めることがわかっています。そのため、タバコを吸う人は、将来的に医療費の負担が増える可能性があります。2018年の厚生労働省の研究結果によると、タバコによる社会全体の損失額は2兆500億円、そのうち、タバコが原因の病気にかかる医療費は1兆6,900億円にのぼりました。

喫煙で業務効率が悪くなる!

喫煙者は、労働災害のリスクが非喫煙者の約1.6倍となります。ニコチン切れや睡眠障害などによる集中力の低下が原因と考えられます。とくに運転業務などに携わる場合は大きなリスクとなります。長期病欠と喫煙の関係では、喫煙者は、がん、心血管疾患、外傷などの病気により30日以上欠勤するリスクが非喫煙者より32%高いという調査結果があります。また、喫煙者は、インフルエンザや新型コロナなどの感染症にかかりやすく重症化しやすいため、突然の欠勤のリスクも高いといえます。

■タバコによる総損失額



*たばこ病気の因果関係が「十分ある」もしくは「示唆される」と判定されたがん、脳卒中、心筋梗塞、認知症の治療で生じた医療費を国の統計資料を基に分析した額。

※出典：たばこ規制の行動経済・医療経済学的評価に関する研究：受動喫煙防止等のたばこ対策の推進に関する研究
厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究、2018。

■喫煙と労働災害のリスク



※Nakata, A et al. : Soc Sci Med 63(9) : 2452, 2006

■病気欠勤(30日以上)のリスク



※Ai Hori, et al., "Smoking and Long-Term Sick Leave in a Japanese Working Population: Findings of the Japan Epidemiology Collaboration on Occupational Health Study" Nicotine & Tobacco Research, Vol.23(1), 135-142, 2021